

「難民食料支援の取り組み」を名城大学ボランティア論（9月21日）で報告して

伊藤小友美（地域と協同の研究センター）

1. 報告した内容

- ・ 支援の経過
- ・ オンライン会議を重ねて学んだこと・考えたこと
- ・ 緊急食料支援（第1弾） 4月14日（水）～17日（土）
50人を越すみなさまから寄せられたご厚意は、
食料 120品目、247点
寄付金 35,233円 です。
お米は 59kg も
- ・ 仕分け・箱詰め・発送作業 5月1日（土）
難民の方は、逃れた先の国、日本でも命を狙われていることがあります。例えば、日本であっても、出身地域に近い人達の集まりがある際には、いったん自分の飲み物から目を離したら、もう口にしないように気を付けている（毒を盛られるなどのリスクを回避するため）という話は複数の人から聞いていますし、情報を探られていると感じるようなメッセージが届いたり、危険な目にあつて実際に日本で警察が定期的に自宅付近を巡回しているケースもあります。今回食料を送った方の中にも、そういった方々が含まれます。個人情報極秘なので、慎重に取り扱いました。
- ・ 難民食料支援学習会 緊急食料支援（第2弾） 6月19日（土） <別紙参照>
- ・ 食料支援物資の配布
4月は、宅急便で難民（申請中の方を含む）の方へお届け。
6月は、名古屋難民支援室へお届けして、直接手渡し。
聴き取り（食だけでなく）をしながら、信頼関係を築くために。
お会いすることでわかることもある → **次の支援に活かす**
- ・ 今後に向けて 長期的・継続的な支援とつながりづくりが大切

2. 学生から寄せられた声（一部抜粋 111名/145名）

- ・ 世の中にこのような活動があることを知らないだけで寄付したい人はいると思うので、SNSを使って活動を知らせたらよいのではないかと思った。
- ・ 何か手伝えることがあれば関わられる人を助けたい。
- ・ 難民の状況を知っていききたい。
- ・ 難民支援のボランティアに参加することで各国の様々な状況を知る良い機会になるのではないか。
- ・ 提供できる食品がないか自分の家でも探したい。
- ・ 難民の方と直接関わるボランティアをしてみたい。
- ・ 留学生は週28時間しかバイトが認められていないことを初めて知った。ボランティアだけでなく、国からも何らかの支援があるといいと思った。
- ・ 難民と在留外国人の違いがわからなかったが大きく違うことを知った。何かできることをしたい。
- ・ 私が知らない身近なところで、多くの困窮者を助ける支援が行われていることを知り感動した。様々な団体と協力し、改善点を考え、工夫しながらの迅速な対応が素晴らしいと思った。
- ・ 自分にできることは、家に置いておいても食べない食品を研究センターの事務所に持っていくことだと思った。

3. 講義を通して

- ・ 真面目に話を聞き、考える若者たちの存在。
- ・ 知らないことを知り、学び、考え、活動へ。→「支援物資に添えるカードを英語で書きたい」
- ・ 一人ではできないことが、人や地域、様々な団体がつながることで広がる可能性。